

## 近畿ブロッククラブネットワークアクション 2017 開催報告

日 時：平成 29 年 11 月 25 日（土） 10：30 ～ 17：00  
会 場：京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」東館 3 階京都府スポーツセンター大会議室  
内 容：テーマ：『改めて「地域」スポーツを考える』

1. 共通プログラム『地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携』
2. 基調講演『改めて「地域」スポーツを考える』
3. アプローチ別講義

第 1 の部屋：『会員のマイクラブ意識を考える』

第 2 の部屋：『総合型「地域」スポーツクラブの本質を考える』

第 3 の部屋：『クラブ間ネットワークを考える』

参加者：125 名

### 【概要】

総合型地域スポーツクラブの取組みが始まって 20 年以上が過ぎた今、時間の経過に伴い見失われがちである「総合型地域スポーツクラブ」の本来の目的や理念を改めて考え直す機会とするため、『改めて「地域」スポーツを考える』をテーマに研修会を開催しました。また、近畿ブロックでは、今年も「府県の枠を越えたネットワーク！共に築き共に成長する」を合言葉に掲げ、ブロック内のクラブが一同に会することで、クラブ間の交流を深め、今回の研修で得られた知識と情報がそれぞれのクラブにおいて、今後の運営に活かされることにも期待するところです。

### 【内容】

#### 1. 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」

講師である京都障害者スポーツ振興会の中村芳道氏、京都市障害者スポーツセンターの太田裕子氏により、京都市における障がい者スポーツの取り組みについてご紹介いただきました。その後、隣席の人と一つのテーマについて話し合うペアワークでは「障がいのある方がクラブのプログラムに参加される際に、どのような情報が必要か」、「情報を誰に聞き、どこに相談すべきか（地域の行政機関、福祉団体との連携）」について意見交換をおこないました。講師のお二人からは、知的障がいのある方がスポーツに参加する際に、事前に障がいの程度を理解することや障がい者との具体的な接し方について例を挙げアドバイスをいただきました。また、ブロック内で障がい者スポーツ事業に取り組んでいるクラブからは、障がい者の家族とも連携し事業を継続させることが、多くの地域住民の居場所づくりにも繋がるとの意見もありました。今回の研修では、障がい者スポーツの現状を踏まえた上で、ペアワークで互いに考え、聞き、発言することで、クラブが今後取り組むべき内容や、取り組むための体制づくりについて、それぞれがイメージすることにも繋がりました。



▶太田裕子氏

## 2. 基調講演 テーマ：『改めて「地域」スポーツを考える』

基調講演では、立命館大学産業社会学部教授の中西純司氏による『改めて「地域」スポーツを考える』の講義がおこなわれました。最初に、地域スポーツのパラダイムシフトについて話され、鍛錬型から競技型、プレイ型といった時代の変化と共にスポーツの捉え方や価値観が変化したこと、相互性に基づくスポーツ活動こそが総合型地域スポーツクラブであること、「地域」という資産によって成り立つのが地域スポーツであることの解説がありました。また、「地域スポーツ振興」から「地域スポーツ推進」に移行したことは、地域住民が地域スポーツの受け手であった「政策対象としての地域スポーツ」から、地域住民自らが計画し他団体と連携し活動をおこなう「生活文化としての地域スポーツ」に移行したことを意味し、その「生活文化としての地域スポーツ」を実現するためには総合型地域スポーツクラブの存在が不可欠であることを改めて確信することができました。



▶中西純司氏

## 3. アプローチ別講義

### 【第1の部屋】テーマ：『会員のマイクラブ意識を考える - 話をとことん聞く - 』

基調講演に引き続き、立命館大学教授の中西純司氏に地域スポーツの役割について講義いただき、その後、グループワークをおこないました。講義では、総合型地域スポーツクラブの会員は“お客様”ではなく、会員が運営に関わってこそマイクラブ意識が高まること、地域の結びつきやお互い様の精神が地域住民の心の結びつきに繋がることを改めて確認することができました。また、グループワークでは、クラブが法人格を取得することの意味や、クラブが地域住民に寄り添いながら運営を進めるための工夫について議論をおこないました。地域によってクラブの成り立ちや特性に違いもあり、グループワークの“正解”は見いだせませんが、マイクラブ意識やお互い様の精神を改めて考えることで、地域における総合型地域スポーツクラブの役割を確認する機会となりました。



▶それぞれのグループで話し合ったことを発表する

▶グループワークの様子

## 【第2の部屋】テーマ：『総合型「地域」スポーツクラブの本質を考える - とことん話し合う - 』

大阪教育大学附属高等学校平野校舎教諭の松田雅彦氏を講師にグループディスカッションを中心とした研修をおこないました。前半では、「スタッフを増やす」、「会員を増やす」、「他の組織と連携」、「複数種目する人を増やす」の4つのカテゴリーに分かれ、それぞれの課題に対して「なぜ、問題が起きているのか」の原因分析を議論、その内容をロジックツリーにより整理し情報を共有し、その後、アクションプラン（課題を解決するための行動）について、再度、議論をしました。後半では、アクションプランを付箋に書き、模造紙上で「重要度」と「緊急度」を考慮し優先順位を整理しました。改めて課題解決の手法を学ぶことで、各クラブが活動をより充実・発展させるため、定期的かつ継続的に計画内容等を検証する際に役立てたいと思います。



▶ロジックツリーを作成する様子

## 【第3の部屋】テーマ：『クラブ間ネットワークを考える - 作業をしながら考える - 』

京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会や府内ブロック代表者により事例発表がおこなわれ、その後のグループディスカッションでは、様々な条件を仮定した上で事業計画のシミュレーションをおこないました。組織体制づくりから、事業の概要、事業実施の為の財源、会議開催や全体のスケジュールまでをグループ内で議論しワークシートを作成しました。実際にクラブ運営に携わっておられる方だけあって、それぞれのグループでは、事業を開催するには何が必要か、どんなことに留意すべきかを確認しながら議論が進められました。他のクラブの人と事業について議論することで新たな発見があり、今後のクラブ運営に活かされることと思います。京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の活動は、他の府県連絡協議会の模範でもあり、“共に築き共に成長する”に相応しい内容でした。



▶事業計画について議論する様子

## 【まとめ】

共通プログラム『地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携』では、それぞれのワークテーマに沿って多くの参加者に意見を述べていただきました。障がい者スポーツは、知識や経験が未熟なことから取り組みを躊躇するクラブも多いようです。未熟だからこそ、何から着手すべきか、どこからの支援が必要かを、自身のクラブで事業立案することをイメージし考えていただくために、敢えて、発言の機会を設けてみました。「初歩的なことを聞くようで恐縮ですが・・・」と前置きの上、話された内容が、案外、核心を突いて共感を得ることもあり、それぞれのクラブで抱える課題が似通っていることを改めて感じました。

基調講演では、メインテーマである『改めて「地域」スポーツを考える』に沿ってご講義頂きました。パラダイムシフトによる「地域スポーツ」の捉え方や価値観の変化、「地域スポーツ振興」

から「地域スポーツ推進」への移行の意味については、クラブに携わる者としては、興味深い内容であり、わかりやすく解説いただきました。今後、クラブ内で「望ましいクラブ像」について議論される機会が設けられることになれば、今回の講義の内容が更に活かされることと思います。アプローチ別講義では、「とことん話を聞く」、「とことん話し合う」、「作業をしながら考える」の3つの部屋に分け、それぞれの志向に合った講義を各自で選択できる方法をとりました。今、クラブに最も必要な内容を聞き、持ち帰ることでクラブの今後の運営に役立てていただきたいと思います。特に、【第2の部屋】で学んだロジックツリーはクラブの課題解決を効率的に進めることに活かされ、【第3の部屋】で活用した事業計画ワークシートは、事業計画を円滑に進めるための一つのツールとなります。

今回、改めて「地域」スポーツを考えることで、クラブの存在意義、果たすべき役割について、改めて考える機会となりました。研修会に参加された皆さんがそれぞれのクラブに帰り、クラブ運営に携わる全ての皆さんと、改めて「地域」スポーツについて考え、議論される機会を設けられることにより、今回、研修された内容が、今後のクラブ運営に活かされ、新たなスタートに繋がることに期待します。

スポーツクリ

